



The more people walk, the better the path will be.

大谷翔平さんから教えられる「生き方」とは？

— 日本の「二刀流」と、アメリカの“two-way player” —

大谷翔平選手は、日本では「二刀流」と呼ばれています。しかし、アメリカでは“two-way player”と表現されることが一般的です。“two-sword style”のような直訳はほとんど使われません。さらに、「唯一無二の存在」という意味で“unicorn”と呼ばれることもあります。この言葉の違いには、単なる翻訳の問題ではない「文化の見方」の違いが表れていると感じます。



日本では、「投手と打者を両立する努力」や「常識への挑戦」に注目が集まりやすく、「苦勞」「精神力」「修行」といった物語として語られる傾向があります。「一つを極める」のが基本であり、二刀流は“特別な例外”として受け止められています。



一方、アメリカでは、「その選手がチームにどれだけ価値を生み出すか」という視点が強くなります。“roster value(1人で2人分の役割を果たす)”や“WAR(勝利貢献度)”の観点から評価されています。つまり、「二つを頑張る」というより、「役割を限定するよりも、価値を生み出せるなら幅広く挑戦すればよい」という発想に近いのです。

二刀流的「文武(部)両道」と「文武不岐(ぶんぶふき)」

「勉強も部活動も頑張る」という考え方は、もともと両者を、別のものとして捉えています。だからこそ、「両立」という言葉が生まれます。



これに対して「文武不岐(ぶんぶふき)」という考え方があります。これは、「学びと実践は本来つながっている」という思想です。『部活動で培われる判断力や仲間との関わり、状況認識、自己調整力は、教科の学習とも深く結びついている。』と捉えるものです。つまり、「勉強」と「部活動」を別々に頑張るのではなく、すべては一つの成長につながっていると捉えて、バランスを考えながら取り組んでいくという考え方です。

大谷選手は「二刀流(文武両道)」ではなく「文武不岐」の体現者！

「打撃が投球理解につながり、投球が打撃理解につながる」と、大谷選手はよく語っています。つまり、彼にとっては「二つの仕事」ではなく、「野球という一つの営みを多面的に行っている」という感覚ではないかと私は感じています。



「なぜ学校で学ぶのか」のヒントになっている

授業、部活動、行事、探究活動、友人との関わり——それらは別々の経験ではなく、互いにつながりながら、一人一人の成長を支えています。それが「なぜ学校で学ぶのか」の答えなのだと思います。

大谷選手は、「二刀流の完成形」というより「分けない生き方」の体現者なのだと思います。だからこそ、あれほど自然体で、多くの人を惹きつけるのでしょう。

いろいろなことを別々に頑張るのではなく、今この瞬間を精一杯生きる。その経験のすべてを自分の成長につなげていく。そんな大谷選手の生き方から、私たちも多くを学びたいものです。

文責：小島義和

6月の行事予定

- 3水 ようこそ先輩！
 東京大学理Ⅱに進学された2人の先輩がやってきます
- 5金 中学球技大会(午前中)
- 6土 休業日
- 9火 交通安全マナーアップ指導
- 10水 全校集会
- 12金 第1回校内漢字コンテスト、内科検診、
 カウンセリング予定日
- 13土 休業日
- 15月 制服完全夏服
- 19金 カウンセリング予定日
- 20土 中学校公開授業、第1回数検
- 23火 考査時間割発表(部活停止～7/3)
- 27土 休業日
- 30火 期末考査(第1日)



「総合的な学習の時間」班活動がスタート！！

ついに、班活動が本格的に始まります。本年度の各班のテーマです。

A I	プログラミングでフィッシングサイトを自動分析するアプリを作る
ボカロ	誰かの支えになるような曲[MV]を作る
中池見湿地	中池見の生態系を次世代に繋ごう！
ホタル	ホタルの生態調査、サツマイモ・オクラ・カボチャの栽培、アマガエルの調査
ぼくらの歴史教科書	“読みたくなる教科書”で変える歴史のイメージ
海ラボ	海水を真水に変える！
カメムシ	「カメムシ」を、環境とお財布に優しく寄せ付けないようにする！！